

平成 2 4 年度
(2012 年度)

事業報告書

自 2012 年 4 月 01 日
至 2013 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

平成24年度 事業実績報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

名 称： 第25回東京国際映画祭
主 催： 公益財団法人ユニジャパン
(第25回東京国際映画祭実行委員会)
共 催： 経済産業省(マーケット部門)
東京都(コンペティション部門)
期 間： 平成24年10月20日(土)～平成24年10月28日(日)
企 画： コンペティション、特別招待作品、アジアの風、日本映画・ある視点、
ワールド・シネマ、natural TIFF、日本橋で日本映画を観よう、
みなと上映会、TIFFCOM 2012、第9回文化庁映画週間 他
会 場： 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・
ホールを使用
後 援： 総務省／外務省／環境省／観光庁／港区／(独)国際交流基金／
(独)日本貿易振興機構／東京国立近代美術館フィルムセンター／
(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団／(財)JKA／
(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
NPO法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
支 援： 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
補 助： 財団法人JKA(競輪補助事業)
スペシャル パートナー： トヨタ自動車(株)
オフィシャル パートナー： (株)木下工務店／日本コカ・コーラ(株)／キャノン(株)
協 賛： ソニー(株)／(株)大和証券グループ本社／(株)クリーク・アンド・リバー社／
(株)フェイス／(株)ファンケル／森ビル(株)／ソニーPCL(株)／凸版印刷(株)／
(株)WOWOW／三井不動産(株)／(株)AOKIホールディングス／
ヤマトホールディングス(株)／全日本空輸(株)／松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／
(株)角川書店／日活(株)／富士フイルム(株)／TOHOシネマズ(株)／
(一社)映画演劇文化協会／(株)ティー・ワイ・リミテッド
特 別 協 力： 読売新聞東京本社

オフィシャルラジオ： (株)J-WAVE

フードサポーター： (株)宗家 源 吉兆庵

協力： Cine Grid／帝人(株)／(株)テレビ朝日／

ゲッティイメージズ ジャパン(株)／(株)Jストリーム／(株)クララネオン／

東京メトロポリタンテレビジョン(株)／ジュピターエンタテインメント(株)／

(株)メディカル・プリンシプル社／(株)ビームス／(株)小田急百貨店

【開催概要】

第25回東京国際映画祭は、平成24年10月20日(土)から10月28日(日)まで9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また9年目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2012)は、今回から初めて台場(港区、ホテルグランパシフィック LE DAIBA)で開催されることとなったが、いずれの会場とも大変な賑わいを見せて、好評裡に終了することが出来た。

「今こそ、映画の力」をスローガンに、記念すべき25回目の映画祭を単なる歴史の通過点でなく、新たなステージへ踏み出す第一歩と考え、再び、未来を切り開く力として映画の力を信じようと考えた第25回であったが、今年も東日本大震災復興支援への取り組みとして、TIFF／東北連携プロジェクト「今こそ、映画の力～『JAPAN IN A DAY[ジャパン イン ア デイ]』がつなぐ未来への一歩」等を実施することが出来た。

今映画祭の自主企画は29企画、動員数は107, 173名、上映作品数は168本であった。提携企画まで入れると企画総数は44、総動員数は257, 440名、上映作品総数は359本となった。

オープニングセレモニーは、10月20日(土)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。依田吉チェアマンの開会宣言の後、枝野幸男経済産業大臣が祝辞を述べられ、続いて国際審査委員及びコンペティション作品の紹介が行なわれた。

公式オープニング作品は、アンドリュース・アダムソン監督の「シルク・ドゥ・ソレイユ 3D 彼方からの物語」で、同監督と主演女優のエリカ・リンツ及びオフィシャル・ナビゲーターの上戸彩さん等の舞台挨拶もあり、会場は感動と興奮に包まれた。今年はまた特別オープニング作品として成田岳／フィリップ・マーティン共同監督「JAPAN IN A DAY[ジャパン イン ア デイ]」も上映され、大いに華やかなオープニングデイとなった。

「シルク・ドゥ・ソレイユ 3D」の終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、「オープニング・レセプション」及び「グリーンタイ晚餐会」が行なわれた。

クロージングセレモニー(授賞式)は、10月28日(日)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「TOYOTA Earth Grand Prix」、「最優秀アジア映画賞」、

「日本映画・ある視点作品賞」の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はロレーヌ・レヴィ監督の「もうひとりの息子」に、審査員特別賞はカン・イグァン監督の「未熟な犯罪者」に贈られた。また、「最優秀アジア映画賞」はレイス・チェリッキ監督の「沈黙の夜に」に、「日本映画・ある視点作品賞」は

土屋豊監督の「GFP BUNNYータリウム少女のプログラムー」に、また「TOYOTA Earth Grand Prix」はヴァレリー・ベルトー／フィリップ・ウィチュス共同監督の「聖者からの食事」に贈られた。引き続き、ロバート・ローレンツ監督による舞台挨拶の後、公式クロージング作品「人生の特等席」の上映を行い、終映後にはアカデミーヒルズ49階タワーホールに会場を移して「感謝のタベ」を開催した。

【自主企画】

（１）コンペティション（共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2012年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人2名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月28日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

- ・東京サクラグランプリ：『もうひとりの息子』（監督 ロレーヌ・レヴィ）
- ・審査員特別賞：『未熟な犯罪者』（監督 カン・イグアン）
- ・最優秀監督賞：ロレーヌ・レヴィ（作品『もうひとりの息子』）
- ・最優秀主演女優賞：ネスリハン・アタギュル（作品『天と地の間のどこか』）
- ・最優秀主演男優賞：ソ・ヨンジュ（作品『未熟な犯罪者』）
- ・最優秀芸術貢献賞：『テセウスの船』パンカジ・クマール撮影監督
- ・観客賞：『フラッシュバックメモリーズ 3D』

上映本数 15作品 動員数 11,349名

（２）特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。また、特別上映作品としても「審査委員長 特別オールナイト コーマン魂」等の企画で計7本を上映した。

上映本数 29作品 動員数 9,080名（「特別上映」7本を含む）

（３）アジアの風

現在、世界でもっとも熱気が感じられるアジアの映画を対象に、さらに地域を拡大して選定した新作に「インドネシア・エクスプレス～3人のシネアスト」、「ディスカバー亜州電影～伝説のホラー&ファンタ王国カンボジア」の特集も含め25本を上映した。各作品のスタッフや出演者を

招聘して観客との交流をはかるとともに、国際映像マーケットにも参加してもらい、アジア映画の産業の発展に繋げることが出来た。

上映本数 25作品 動員数 7,730名

最優秀アジア映画賞

「アジアの風」部門で上映された作品の中から、アジア映画賞審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。

- ・最優秀アジア映画賞：『沈黙の夜』（監督 レイス・チェリッキ）
- ・スペシャル・メンション：『ブワカウ』（監督 ジュン・ロブレス・ラナ）
『兵士、その後』（監督 アソカ・ハンダガマ）
『老人ホームを飛びだして』（監督 チャン・ヤン）

（４）日本映画・ある視点

活況を増している日本映画を対象に、ある角度から焦点を絞った選考を行ない、一般観客を始め、海外からのゲストにも新しい日本映画の躍動を紹介する企画である。個性に溢れた多様性のある作品10本を上映した。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

- ・作品賞：『GFP BUNNYータリウム少女のプログラマー』（監督 土屋 豊）

上映本数 10作品 動員数 2,329名

（５）ワールドシネマ

欧米の映画を中心に、他の国際映画祭で高い評価を受けた秀作や、有名監督の日本では未公開の作品など、世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 12作品 動員数 7,162名

（６）natural T I F F

エコロジーをテーマに掲げた本映画祭が21回から新たに設けた部門。「自然と人間の共生」という視点から、ドラマ、ドキュメンタリーを含め、また新作、旧作を問わず柔軟な選定を行なった。

上映本数 8作品 動員数 1,892名

TOYOTA Earth Grand Prix

「natural T I F F」部門で上映された新作と、他部門での上映であってもこの趣旨に沿った作品を対象に審査委員会の審査により1作品が選ばれて、賞金5千米ドルが贈られた。また、今年は審査委員特別賞に1作品が選ばれ、賞金2千米ドルが贈られた。

- ・TOYOTA Earth Grand Prix：『聖者からの食事』（監督 ヴァレリー・ベルトー／フィリップ・ウィチェス）
- ・審査委員特別賞：『ゴミ地球の代償』（監督 キャンディダ・ブラディ）

(7) 日本橋で日本映画を観よう

今年度の特集企画として、“花のお江戸”の日本橋で3日間にわたり日本映画の特集上映を行った。

(Day 1)「日本映画クラシック 映画は大映70周年」 10月23日(火)

題名もズバリの『日本橋』(監督 市川崑 / 主演 淡島千景、山本富士子、若尾文子)と『怪盗と判官』(監督 加戸敏 / 主演 市川雷蔵、勝新太郎)の2本を上映した。

(Day 2)「新作ドキュメンタリー もうひとつの昭和史」 10月24日(水)

『二つの祖国で・日系陸軍情報部』(監督 すずきじゅんいち)と『空を拓く～建築家郭茂林という男～』(監督 酒井充子)の2本を上映した。

(Day 3)「バリアフリー上映+日本映画監督協会提携上映」 10月25日(木)

今年で2回目となるバリアフリー上映では『裸の島』(監督 新藤兼人)を上映し、また恒例となっている日本映画監督協会との提携企画として、同協会の今年度新人賞受賞作品『エンディングノート』(監督 砂田麻美)を上映した。

[共催・提携企画]

(8) 第9回文化庁映画週間

①「文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会」 10月20日(土) / 10月27日(土)

優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者6名を顕彰した

②「シンポジウム—MOVIE CAMPUS—」 10月26日(金)

日本文化の最新動向をアカデミックな視点で紹介。

第一部「クラウドファンディングは本当に映画を救うのか?」、第二部「ショートアニメーションの密かな愉しみ～絵本との蜜月～」の二つのテーマで議論した。

③「映画ナビゲーターズ」 10月24日(水) / 10月27日(土)

様々な分野で活躍するゲストが、独自の映画の楽しみ方を紹介。初日は大畑大介氏と村上純氏、2日目はTwitter Japan 社、映画監督、ブロガーが、映画を通してそれぞれのテーマを語った。

(9) みなと上映会

10月20日(土) / 10月27日(土)

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「アーネストとセレスティヌ」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならずアリーナでも行った。

(10) 第25回東京国際女性映画祭：フィナーレ

10月21日(日)

1985年にT I F Fと同時に発足した本映画祭は「日本の女性監督の輩出」という所期の目的を達成して、この日、大盛況の裡にフィナーレの幕を下ろすこととなった。

スタッフ一同は、長い間の各方面からの声援に対して感謝を表明した。

(11) コリアン・シネマ・ウィーク 2012

10月20日(土)～10月23日(火)

最新の韓国映画5本の上映とともに、韓日の映画祭関係者による韓国映画の現状と展望についてのシンポジウムを開催。『建築学概論』のイ・ヨンジュ監督、『合唱』のチョ・ジョンレ監督による舞台挨拶なども行い好評を得た。

(12) ショートショートフィルムフェスティバル& アジア「フォーカス オン アジア」

10月25日(木)～10月28日(日)

アッバス・キアロスタミ、アピチャップポン・ウィーラセクタン両監督のショートフィルムの他に、韓国の俳優キム・スヒョン出演作品等全15作品を上映した。

ワークショップには映画・TV『モテキ』の大根仁監督が講師で登場した。

(13) 2012 東京・中国映画、テレビ週間

10月20日(土)～10月25日(木)

日中関係が不安定の中で開催されたにも拘らず、大勢の観客が足を運んで来場した。

“新恋愛時代”の上映作品も好評であった。

(14) 第5回したまちコメディ映画祭 in 台東

9月14日(金)～9月17日(月)

ザ・ドリフターズにコメディ栄誉賞を授与し、記念の特集上映や豪華アーティストによるクロージング・リスペクトライブが開催された。

また、特別招待作品の上映やコメディ映画談議、コンペティションなど多彩な企画が行われた。

(15) T I F F / 東北提携プロジェクト「今こそ、映画の力～映画『JAPAN IN A DAY [ジャパン イン ア デイ]』がつなぐ未来への一歩」

10月22日(月)

特別オープニング作品『JAPAN IN A DAY [ジャパン イン ア デイ]』を鑑賞した後、映画が震災復興に向けて出来ること、映画の力というテーマで東京(六本木)と東北(仙台)を4K生中継でつないでのパネルディスカッションを実施した。

(16) 日米フィルムアカデミー

10月22日(月)

ハリウッドでプロデューサーとして活躍するジム・ウィテカー氏が、アメリカ映画界の魅力や成功の秘訣を披露し、9.11同時多発テロからの再生を描いた、自身の監督作『リバース』を日本で初上映して大きな感動を呼んだ。

(17) 第34回PFFぴあフィルムフェスティバル

9月18日(火)～9月28日(金)

自主製作映画のコンペティション「PFFアワード」では、平均年齢23.6歳の16名の才能を紹介した。招待作品部門では、M. パウエル監督特集や森田芳充監督の追悼企画など、映画を志す若者に観て欲しい映画と人を紹介した。

(18) Cine Grid @TIFF 2012

10月23日(火)

最新の映像制作・配信技術に関するカンファレンス。

最新のICT技術による映像制作・配信技術と事例を紹介するカンファレンスを開催した。

(19) 映像シンポジウム

10月25日(木)

デジタルシネマが拓げる映画撮影の方向性をテーマに、ヨーロッパ撮影監督連合からの2名と上野彰吾氏、長沼六男氏の両氏を招き、掛尾良夫氏の司会で2部構成のシンポジウムを行った。

(20) 日本ー香港間の地域協力セミナー

10月23日(火)

香港より著名プロデューサーを招き、最新のトレンドを紹介するとともに、香港を活用した中国・アジア市場進出について、日本から香港コンテンツマーケットに参加した経験者に登壇してもらいセミナーを開催した。

(21) 映画産業とTV放送産業の経済貢献セミナー

10月22日(月)

映画・TV放送産業の経済効果の推計結果を発表し、映画を取り巻く現状と今後の劇場への来場者促進、3D映画を含む劇場視聴環境のPR、中小都市への劇場普及等について議論がなされた。

(22) Green Energy Festa in TIFF / Let's エネママカフェ in 六本木

10月27日(土)

資源エネルギー庁主催。再生可能エネルギーをテーマに製作されたショートフィルムの上映、及び行定勲監督他の有識者によるディスカッションを実施した。同日には、NPO法人チルドリンと共同開催になる「エネママカフェ」も実施された。

(23) その他の上映企画

①「新作映画イッキに見せます in 東京国際映画祭」

10月25日(木)

業界初の催しとして、配給会社19社による新作予告編64本のプレゼンが実施された。

プレゼンターの大槻ケンジさん他がイベントを盛り上げ、4時間の長丁場にも拘らず満席の会場から大好評を得ることとなった。

②「20th ANNIVERSARY キンダー・フィルム・フェスティバル」

8月15日(水)～8月19日(日)

20周年の節目を迎え、調布市をホームグラウンドとして開催された。

チェアパーソンの戸田恵子さんの下、世界中から多くのゲストが本映画祭に参加し、連日、超満員の大盛況となった。幅広い年齢層から熱い支持を受けて、『ももへの手紙』が受賞した。

③「第6回田辺・弁慶映画祭」

11月2日(金)～11月4日(日)

コンペティション作品、招待作品、特別上映作品、応援上映作品計15本を上映。コンペティション作品は応募のあった90作品のうち、予備選考を通過した6作品を上映、審査を行って授賞作品を決定した。

- ④「特集 アジア映画の森」 10月2日(火)～10月13日(土)
書籍「アジア映画の森―新世紀の映画地図」(作品社刊)の出版を記念して実施されたアジア映画特集で、TIFF「アジアの風」部門で過去に上映した作品も多数上映され、連日、トークショーを併催した。
- ⑤「『終の信託』公開記念 周防正行映画祭」 10月8日(月)
最新作『終の信託』の公開を記念し、周防正行監督の代表作品3本を連続上映し、幕間には周防監督と役所広司さん、竹中直人さん、加瀬亮さんなど各作品の出演者を招いてトークショーが行われた。
- ⑥「ポーランド映画祭2012」 11月24日(土)～12月7日(金)
本映画祭の監修者イエジー・スコリモフスキ氏、新作『イクシアナ』のミハウ・スコリモフスキー監督、ツィエル・コザチェフスキー駐日ポーランド大使らの出席の下に開会されて、連日、満員の大盛況となった。

【顕彰・助成】

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラ グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの優秀作品に対する顕彰(最優秀アジア映画賞)。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰(日本映画・ある視点 作品賞)。
- ④ natural TIFFF 部門の優秀作品に対する顕彰(TOYOTA Earth Grand Prix)。
- ⑤ レイモンド・チョウ氏に「TIFF特別感謝賞」を授与。

【運営】

① 自主企画の実施

本年度は、例年行われている「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの風」、「日本映画・ある視点」、「WORLD CINEMA」、「natural TIFFF supported by TOYOTA」、及び「日本橋で日本映画を観よう」を実施した。

② 上映会場、各種会場

六本木地区をメイン会場とした。

・主要上映会場：

TOHOシネマズ六本木ヒルズ(8スクリーン)

シネマート六本木(2スクリーン)

TOHOシネマズ・シャンテ(2スクリーン)

日本橋三井ホール(1スクリーン)

・その他の上映会場(提携企画を上映)：

東京国立近代美術館フィルムセンター、アテネフランセ文化センター、

セルバンテス文化センター東京、韓国文化院ハンマダンホール、

調布市グリーンホール、浅草公会堂、浅草中映劇場、東京都美術館、

東京都写真美術館ホール、渋谷シアター・イメージフォーラム、

東北大学 青葉山キャンパス、ホテル日航東京、紀南文化会館

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニングレセプション、グリーンタイ晚餐会の会場として使用。

「アカデミーヒルズ」：49階（東京国際映画祭事務局、記者会見、各種取材、各種セミナー実施、感謝のタベ）

2階（インフォメーション・デスク、IDカウンター）

「ヒルズカフェ」：TIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として使用。

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：グリーンカーペット・エリアとして使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：週末を中心に各種イベントの実施に使用。

「Future Seven」：会期中にレセプション等を実施した。

「小田急百貨店新宿本館 12F レストラン街」：本映画祭の25回の歴史や出品作品の紹介等の場として活用。

③ 入場料金

- 公式オープニング/特別オープニング作品・¥2,000-
- 公式クロージング作品・・・・・・・・・・ ¥2,000-
- コンペティション・・・・・・・・・・ ¥1,000-／学生¥500-
- 特別招待作品・・・・・・・・・・ ¥1,800-／学生¥500-
- アジアの風・・・・・・・・・・ ¥1,300-／学生¥500-
- 日本映画・ある視点・・・・・・・・・・ ¥1,300-／学生¥500-
- WORLD CINEMA・・・・・・・・・・ ¥1,300-／学生¥500-
- natural TIFF supported by TOYOTA・・・ ¥1,300-／学生¥500-
- みなと上映会・・・・・・・・・・ ¥1,000-／学生¥500-
- 特別上映・・・・・・・・・・ ¥2,500-／学生¥500-
- 日本橋で日本映画を観よう・・・・・・・・・・ ¥1,000-／学生¥500-
- ※ 公式・特別オープニング/公式クロージング作品を除いて全作品の学生当日料金を500円とした。

④ 会期中のイベント

（六本木ヒルズ アリーナイベント）

- オープニング・イベント：10月20日（土） グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。
- みなと上映会の実施：10月27日（土）、毎年恒例のハロウィンイベントに引き続き、テレ朝ビジョンを使つてのヴォイスオーバー上映を実施した。

（TIFF movie cafe ティフムービーカフェ）

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェをTIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として、様々な企画を行った。

- ・コンペティション作品記者会見／国際審査委員記者会見／各種パーティー
- ・TIFF night：DJやライブ演奏など

(グリーンカーペット・エリア)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」をグリーンカーペット・エリアと称して、映画とエコロジーをつなぐ空間を創出した。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズアカデミーヒルズエントランス内にて実施した。

一般の六本木ヒルズ来場者に広く東京国際映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者に対しての案内業務を行った。

⑥ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場で案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFFオフィシャルグッズとして、ピンバッジ、エコバッグを作成した。

エコバッグはSHIP Sとのコラボレーションバッグで好評であった。

[広報活動]

① 新聞広告・・・「読売新聞」紙上

② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月22日より

③ プレスPASS・・・取材者向けのID登録。

プレスセンターやID上映での利用が可能になる。

④ 記者会見

○ ラインアップ記者会見 2012年 9月20日 六本木ヒルズ・タワーホール

○ 会期中の記者会見 六本木ヒルズ・ムービーカフェ

○ 受賞者記者会見 2012年10月28日 六本木ヒルズ・スカイラウンジ

⑤ 宣伝素材・・・チラシ(全上映スケジュール入り)

公式プログラム、公式記録、ポスター、キャンペーンチラシ

⑥ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など

一般紙、スポーツ紙：新聞合計 801媒体

映画専門誌、情報誌：紙媒体合計 203媒体

NHK、民放局、BS・CS局他：電波媒体合計 208媒体

インターネット：ネット媒体合計 2,994媒体

海外広報：海外媒体合計 2,240媒体

パブリシティ合計 6,446媒体

会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。

⑦ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。

公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFFの

最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。

⑧ イメージネット・T I F Fの出品作品の素材を提供しているサービス。

登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

[東京国際映画祭地区委員会の活動]

「みなと委員会」・・・ 港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。

第26回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。

- みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催
2012年10月20日(土)／10月27日(土)
TOHOシネマズ六本木ヒルズ、六本木ヒルズ・アリーナ
- 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金1万米ドル)
- 街頭フラッグの掲出
けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、芋洗坂商店街、
六本木材木町商店街にて合計305枚
2012年10月10日(水)～10月28日(日)
- みなとクリーンナップ・プロジェクト
六本木会場周辺の街頭清掃作業を行うべく、港区の武井区長、
映画祭の依田チェアマンをはじめ367名が集合して清掃作業
を実施した。
2012年10月13日(土) 午前10時開始
- オリジナル広告
港区のKissポート誌10月号に1ページ広告を掲載して、
港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で
合計15万枚を配布した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

- 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、吊り下げバナー
- 66プラザ 水景、ポスターボード、柱面特設シート
- 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- けやき坂 歩道照明バナー

(六本木地区内の広報活動)

- 六本木駅 柱巻き、オープニング・クロージング作品ポスター

[東日本大震災復興への取り組み]

- ① T I F F / 東北連携プロジェクト「今こそ、映画の力～『JAPAN IN A DAY
[ジャパン イン ア デイ]』がつなぐ未来への一歩」

前回も実施したCine Gridの仕組みを活用し、東北会場[仙台]と東京会場[六本木]
を4K双方向ライブ中継でつないでのパネルディスカッションを行った。

今年度は、第25回東京国際映画祭の特別オープニング作品である『JAPAN IN A DAY
[ジャパン イン ア デイ]』を鑑賞した上で、両会場に監督他のゲストを招き、映画が
震災復興に向けて出来ること、映画の力、についての意見交換を行った。

- ② 日米フィルムアカデミー：『リバース』上映&トークセッション

米国務省のプロジェクト「American Film Showcase」の一環として、ジム・ウイテカー監督
の来日と、監督作品『リバース』の日本初上映を行った。

9.11アメリカ同時多発テロからの人々の再生を描いたこのドキュメンタリー映画の上映、
及び同監督のトークショーを通じて、東日本大震災からの復興に取り組む上での手がかりと
応援のメッセージを震災後の日本に届けると同時に、次世代の日本を担う未来の映画人が、
ハリウッドの第一線で監督・プロデューサーとして活躍する同氏よりアメリカでの映画作り
やマーケティング、配給の実情や裏側を学ぶイベントとなった。

- ③ 「映画応援団 - シネマエール東北」への寄付

昨年度に引き続いて、グリーン募金(2008年より実施)の一部を、被災地での上映活動を行
っている「シネマエール東北」に寄付した。金額は486,745円。

(今年度のグリーン募金の総額が1,460,235円であり、「緑の東京募金」、「木下の森」、及び
「シネマエール東北」の3団体に均等に寄付をした。)

2. 国際振興支援事業

【 コンテンツ海外発信事業 】

(1) 映画祭・映画賞への出品支援（文化庁の委託事業）

海外映画祭・映画賞に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■ 平成 24 年度支援実績

- ① 総採択数 79 件（平成 23 年度実績 83 件）
- ② 総申請件数 178 件（同 215 件）
- ③ 支援総額 25,659,694 円（同 32,290,444 円）
- ④ 主な支援作品
 - ・カンヌ国際映画祭 『ライク・サムワン・イン・ラブ』
（アッバス・キアロスタミ監督）
* 平成 23 年度国際共同製作支援作品
 - ・カルロヴィヴァリ国際映画祭 『カミハテ商店』（山本起也監督）
 - ・ヴェネチア国際映画祭 『アウトレイジ・ビヨンド』（北野武監督）
『贖罪』（黒澤清監督）
 - ・ロカルノ国際映画祭 『塵』（河瀬直美監督）
 - ・モントリオール国際映画祭 『あなたへ』（降旗康男監督）
 - ・トロント国際映画祭 『希望の国』（園子温監督）
 - ・ベルリン国際映画祭 『先祖になる』（池谷薫監督）
『東京家族』（山田洋次監督）

■ ニュースレターの制作発信

上記に関連し、世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報を掲載したメールマガジン「UniJapan Newsletter」を隔週で発行（日本語版、英語版）。またこのニュースレターは本財団のウェブサイトにも転載され、より広く情報提供を行なっている。

■ エントリー情報／日本映画の出品・受賞情報／海外映画祭及び映像見本市 掲載数

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	85 件 (98 件)
南北アメリカ	43 件 (37 件)
中近東アフリカ	2 件 (8 件)
アジア太平洋	21 件 (25 件)
日本	2 件 (5 件)
合 計	153 件 (171 件)

（２）日本映画・アニメ情報ブースの出展（文化庁の委託事業）

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパンプース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

■ 出展映画祭マーケット

- ① カンヌ国際映画祭マーケット（平成 24 年 5 月 16 日～25 日）
* JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット（平成 24 年 6 月 6 日～8 日）
・ 練馬アニメーション協議会との共同ブース出展。
・ 6 月 7 日（水）「Japan Party」を開催。
- ③ トロント国際映画祭マーケット（平成 24 年 9 月 6 日～16 日）
・ 9 月 11 日（火）国際交流基金トロント事務所にて「ジャパン・フィルム・ナイト」を開催。
- ④ ベルリン国際映画祭マーケット（平成 25 年 2 月 6 日～14 日）
- ⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 25 年 3 月 18 日～3 月 20 日）
* JETRO との共同出展

（３）DVD ライブラリーの設置

来日する海外の映画祭関係者が新作日本映画を視聴できる「DVD ライブラリー」を財団内に設置。また、カンヌでの「ジャパンプース」内にも設置し所蔵作品 DVD を現地に発送、海外においても出張サービスを実施している。

■ 平成 24 年度の概要

- ① 来日視聴者数： 48 人（平成 23 年度は 57 人）
* 出張 DVD ライブラリー視聴者：380 人
- ② ライブラリー所蔵作品数：889 作品（平成 23 年度は 737 作品）
- ③ 主な視聴者：
 - ・ 海外映画祭プログラマー（カンヌ監督週間、ベルリン国際映画祭、釜山国際映画祭、ニッポンコネクション[ドイツ]など）
 - ・ バイヤー（日本映画を海外で配給している企業）
 - ・ プレス

（４）海外向け日本映画データベース・JFDB の制作（国際交流基金との共同事業）

日本映画・アニメの作品情報を日英バイリンガルでデータベース化し、海外に発信している。

公開年	掲載作品数
2002 年	40
2003 年	118
2004 年	138
2005 年	117
2006 年	223
2007 年	289
2008 年	372
2009 年	376
2010 年	398
2011 年	366
2012 年	371
合 計	2,808

(5) 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布 (文化庁の委託事業)

平成 24 年に劇場公開された代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載、主要映画祭・映像見本市にて配布した。

■ Japanese Film 2013 の概要

- ① 配布数：3000 部
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM（東京）、アメリカン・フィルム・マーケット（ロサンゼルス）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所へ送付
- ③ 掲載作品：選考委員会により代表的な 80 作品を選んで日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会からの協力を得て、各種統計情報を掲載

(6) 「文化庁映画週間」の企画制作（文化庁の委託事業）

東京国際映画祭に会期を合わせて、平成 24 年 10 月 20 日（土）～27 日（土）、六本木ヒルズ他にて開催。

■ 文化庁映画賞

- ① 文化映画記録部門受賞作品
(授賞式を 10 月 20 日、記念上映会を 10 月 27 日に実施)

・文化記録映画大賞

『隣る人』

監督：刀川 和也 製作者名：アジアプレス・インターナショナル

・文化記録映画賞優秀賞

『医(いや)す者として～映像と証言で綴る農村医療の戦後史～』

監督：鈴木 正義

製作者名：株式会社グループ現代

『沈黙の春を生きて』

監督：坂田 雅子

製作者名：坂田 雅子、株式会社シグロ

② 文化庁映画賞 映画功労部門受賞者（授賞式を10月20日に実施）

・赤松 陽構造 （映画タイトルデザイン）

・明田川 進 （音響監督）

・井関 惺 （映画製作）

・佐々木 英世 （音響効果）

・芝山 努 （アニメーション監督）

・林 隆 （映画美術監督）

■ シンポジウム - Movie Campus - （開催日：10月26日）

①第一部：「クラウドファンディングは本当に映画を救うのか？」

・ゲスト：佐々木 芽生 （映画監督／プロデューサー）

小川 真司 （映画プロデューサー／株式会社ブリッジヘッド代表取締役）

大高 健志 （MotionGallery 主宰）

梅津 文 （GEM Partners 株式会社代表取締役）

カート・ヴォス （映画監督／脚本／製作／撮影）

・モデレーター：関口 裕子 （ジャーナリスト／株式会社アヴァンティ・プラス代表取締役）

②第二部：「ショートアニメーションの密かな愉しみ～絵本との蜜月～」

・ゲスト：山村 浩二 （アニメーション作家）

ミムラ （女優）

・モデレーター：田中 文人 （東京国際映画祭）

■ 講演会：映画ナビゲーターズ

①「Laugh & Sports 映画筋トレ」（開催日：10月24日）

・ゲスト：大畑 大介 （元ラグビー日本代表／神戸製鋼コベルコスティーラーズ アンバサダー）

村上 純 （しずる／お笑い芸人）

②「Twitter と映画で遊ぼう」（開催日：10月27日）

・ゲスト：牧野 友衛 （Twitter Japan 株式会社 ビジネス開発プロダクトディレクター）

シャディア ブッタ （Twitter Japan 株式会社 オペレーションチーム）

榎本 憲男 （映画監督／脚本／プロデューサー）

まつゆう* （アーティスト／モデル／ブロガー／コラムニスト／プランナー）

松江 哲明 （映画監督／プロデューサー）

・モデレーター：田中 文人 （東京国際映画祭）

【 国際ビジネス支援事業 】

(1) - 1. 「TIFFCOM」の制作運営（経済産業省の委託事業）

平成 24 年度で 9 年目を迎えた TIFFCOM2012 は、会場全体の拡充のため、開催場所を六本木ヒルズからお台場のホテルグランパシフィック LE DAIBA へ移転し、スペースを 120%広げることに成功。また、今回から、音楽の国際マーケットである TIMM（第 9 回国際ミュージックマーケット）、アニメ関係を中心とした TIAF（東京国際アニメ祭 2012 秋）、キャラクターなどを中心とした CMT（CREATIVE MARKET TOKYO 2012）も同じ会場で実施し、コンテンツが一堂に会した合同マーケットとして新しく生まれ変わった。

また TIFFCOM 単独でも、過去最高となる 229 の出展団体が参加し、バイヤー登録は、昨年対比 120%UP の 983 人。商談件数も昨年対比約 129%と増加し、それに伴い、総成約金額も大幅な増加となった。

■ 実施概要：

- ① 主催：経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催：第 25 回東京国際映画祭実行委員会
- ③ 合同マーケット：第 9 回東京国ミュージックマーケット（TIMM）、東京国際アニメ祭 2012 秋（TIAF 2012 Autumn）、CREATIVE MARKET TOKYO 2012
- ④ 連携企画：国際ドラマフェスティバル in Tokyo 2012
- ⑤ 期日：平成 24 年 10 月 23 日（火）～10 月 25 日（木）
- ⑥ 会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA
シネマメディアージュ

■ ローカライズ支援：

TIFFCOM 出展企業を対象に、映画・テレビコンテンツの英語字幕制作や海外向けトレーラー制作の支援を行った。

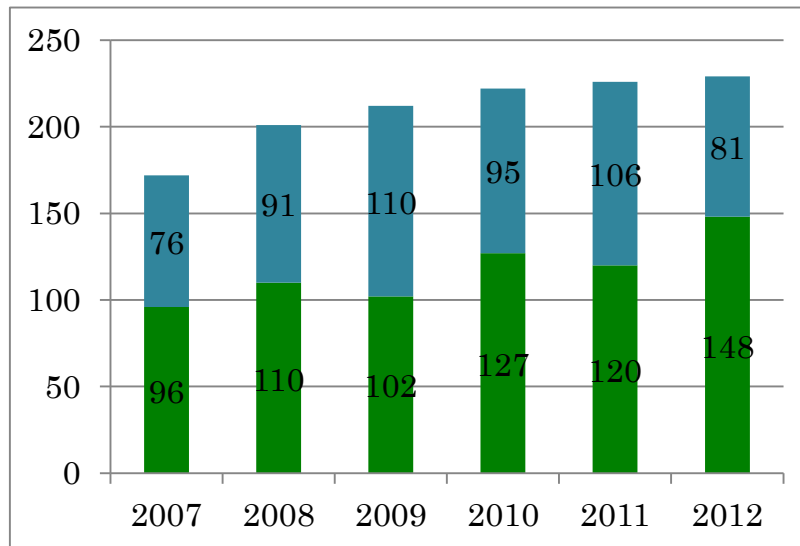
- ① 支援件数：素材制作：12 件、字幕制作：14 件、海外展開：13 件 計 39 件
- ② 支援総額：9,305,908 円

【 TIFFCOM2012 結果報告 】

出展者データ

2012 年度出展団体数

【 海外：148／国内：81 合計：229 】



2012 年度 国別出展団体数

国名	数	国名	数	国名	数
日本	81	メキシコ	7	スイス	1
韓国	41	香港	4	ドイツ	1
台湾	17	UAE	3	イラン	1
イギリス	13	トルコ	2	ニュージーランド	1
マレーシア	13	ロシア	2	ギリシャ	1
アメリカ	9	タイ	2	チリ	1
カナダ	9	インドネシア	1	ルワンダ	1
中国	8	フィリピン	1		
スペイン	8	イタリア	1	合計	229

バイヤーデータ

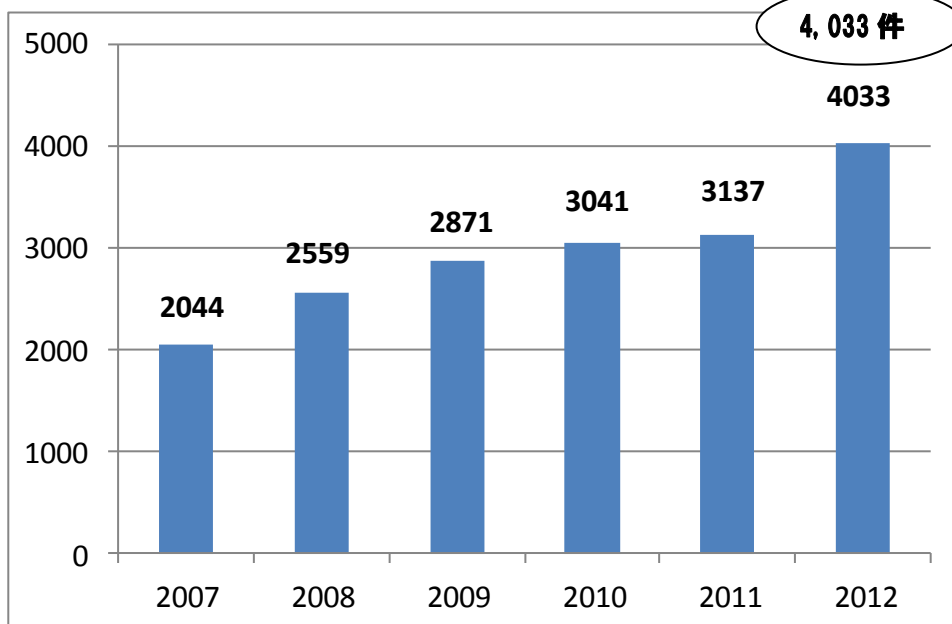
◆2012 年度 ： 983 人 ※ 2011 年度より 120%増加

Country/Region	No.	Country/Region	No.	Country/Region	No.	Country/Region	No.
日本	461	ミャンマー	3	ベトナム	7	オランダ	1
韓国	106	インド	3	フランス	6	ハンガリー	1
台湾	76	カナダ	3	イタリア	4	スイス	1
香港	70	ドイツ	3	UAE	3	スウェーデン	1
中国	51	ロシア	3			合計	983
タイ	48	スペイン	3				
アメリカ	39	コロンビア	2				
マレーシア	23	ポーランド	2				
シンガポール	18	ヨルダン	1				
フィリピン	13	クウェート	1				
イギリス	10	ラオス	1				
オーストラリア	9	チュニジア	1				
インドネシア	8	チリ	1				

商談結果推移・内容

契約金額および商談件数推移

◆2012 年度 ： 総契約金額：\$51,815,939（約 52 億 2926 万円）



(1) - 2. イベント&セミナーの開催

TIFFCOM2012 開催の一環として、国内外のコンテンツ産業の動向をテーマに、ビジネス及びクリエイティブに関連する各種セミナーを実施した。

■ 実施概要

① 日 程：平成 24 年 10 月 23 日（火）～25 日（木）

② 会 場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA

③ スケジュール

10 月 23 日（火）

- ・オープニングセレモニー
- ・セミナー1. 各国支援制度について
- ・パネルディスカッション スペイン・ラテンアメリカにおける邦画の状況
- ・セミナー2. JETRO セミナー 日本映画の海外進出～輸入とリメイク

10 月 24 日（水）

- ・セミナー3. TV フォーマットセールス最前線 - TREASURE BOX JAPAN@TIFFCOM -
- ・TREASURE BOX JAPAN ネットワークレセプション
- ・UK パビリオン アフタヌーンティーパーティー
- ・セミナー4. キッズ番組で海外展開 日本企業と国際共同製作の潮流

10 月 25 日（木）

- ・文化通信企画セミナー 映画界大論戦 プロデューサー VS 学生

(2) 国際共同製作への支援（経済産業省の委託事業）

日本の国際共同製作支援プログラムを海外に知らせ、国際共同製作を促進するための各種活動を実施。TIFFCOM 企画マーケットでは有望な共同製作企画を招いてマッチングや情報交換を行い、文化庁の国際共同製作映画への支援に関わる認定を行うとともに認定制度の検討委員会を開催した。

■TIFFCOM 2012 企画マーケット

TIFFCOM 2012 企画マーケットは、文化庁の国際共同製作支援事業と連携し、有望な共同制作企画を発掘することを目的として、映画製作者および出資者向けに一連のセミナー、ビジネスマッチング、ピッチング、ネットワーキングイベントなどを行った。今年度は、欧州のプロデューサー団体 Ateliers du cinéma européen(ACE)、KOFIC(韓国映画振興委員会)のコーディネイト企画を含めて、全 20 企画が参加した。

①実施内容

主催： 経済産業省、公益財団法人ユニジャパン

日程： 平成 24 年 10 月 23 日～25 日

場所： ホテルグランパシフィック LE DAIBA 29 階

②参加企画及びプロデューサー

日本企画

ロシアからの手紙	藤井健太郎	出雲ピクチャーズ株式会社	プロデューサー
	錦織良成	出雲ピクチャーズ株式会社	監督
	佐藤唯史	出雲ピクチャーズ株式会社	プロデューサー
真夜中の午前三時/3 AM	宮平貴子	株式会社ククルビジョン	プロデューサー/監督
Lily in the Woods	塩原史子	株式会社塩原総合事務所	プロデューサー
	Chris Chow		監督
アニマ	辻本好二	神宮前プロデュース	プロデューサー
	ガスパール・クエンツ	神宮前プロデュース	監督
ラフカディオハーン：イサカへの旅	黒岩久美	Media Space, inc.	プロデューサー

ヨーロッパ企画 *ACE コーディネートによる

My Name is Hmm… (フランス)	Christophe AUDEGUIS	LOVE STREAMS AGNES B.	プロデューサー
Centaur (フランス)	Gedomir KOLAR	A. S. A. P. FILMS	プロデューサー
Kokoro (ベルギー)	Bertrand GORE	BLUE MONDAY PRODUCTIONS	プロデューサー
	Denis DELCAMPE	NEED PRODUCTIONS	プロデューサー
Tokyo Torshavn (デンマーク)	Lars Bredo RAHBEK	NIMBUS FILM PRODUCTIONS	プロデューサー
Baby (ポーランド)	Weronika GZOLNOWSKA	EASYBUSYPRODUCTIONS	プロデューサー
	石川 慶		監督
	浜野高宏	株式会社NHKエンタープライズ	プロデューサー

韓国企画 *KOFIC コーディネートによる

Love history	E J CHO	Bom Film Production	プロデューサー
	LIM Jiyeon	Bom Film Production	セールス
Pianist of Northland	Kim youngnam	Contents 7	監督
	Toyoyama yuki	Esprit	プロデューサー
	Shin seungsik	Contents 7	脚本家
	Noh chimin	Dima Entertainment	プロデューサー
	Kim Yukie	Dima Entertainment	通訳
JAL 351, This is Pyung-yang airport	LEE Kyunghee	Nr.Lee's Entertainment	プロデューサー
	PARK Yoohwan	Nr.Lee's Entertainment	監督
THE LAST PRINCESS	NAM Erica	Daisy Entertainment	監督
	SHIN Jinyoung	Daisy Entertainment	プロデューサー
House of the killers	LEE Youngmi	FilmFront	監督
	HA Soojung	FilmFront	プロデューサー

その他海外企画

Cocktail Party (米国)	Regge LIFE	Lifecycle Productions Inc.	プロデューサー / 監督
Chaipan (中国)	OTSUKA Ryuji	Beijing Creative Art Talent Corporation	監督
	Hsiao-ming HSU		プロデューサー

	Ji HUANG		脚本家
	Ruby CHEN		プロデューサー
The Fandom Diary (インドネシア)	Rama Adi	Cinesurya Pictures	プロデューサー
	Rima Nanda Dwi Astika	PT. Surya Indrantara-cinesurya pictures	プロデューサー
	Nursita SURYA	Cinesurya Pictures	監督/ 脚本
	西村敬喜	株式会社 ナイス・デー	プロデューサー
Time Difference (スペイン)	Gonzalo ROBLED0	PACE INC.	プロデューサー
	Nancy SAVOCA	PACE INC.	プロデューサー/監督
Missu Peace (ニュージーランド)	Maile DAUGHERTY	Antipodean Films Ltd	プロデューサー
	小澤汀	FILM Construction	プロデューサー

③スケジュール

10月22日(月)

- ・オープニング交流会

10月23日(火)

- ・企画ピッチング ACE 企画、日本企画、韓国企画
- ・セミナー1. 日本のインセンティブの未来を考える
講師: Joseph CHIANESE、和田倉和利、田中 まこ、Ronan GIRRE
モデレーター: 関口裕子
- ・セミナー2. ヨーロッパにおける映画の資金調達について
講師: Roman PAUL、Ronan GIRRE

10月24日(水)

- ・参加プロデューサーの個別ミーティング
- ・セミナー3. 日本の国際共同製作映画支援について
- ・セミナー4. ヨーロッパ映画の日本配給について
講師: 定井勇二
モデレーター: 保田卓夫
- ・セミナー5. 日本におけるキャスティングについて
講師: 國實瑞恵、吉川威史
モデレーター: 保田卓夫

10月25日(木)

- ・参加プロデューサーの個別ミーティング
- ・日本の業界関係者との交流会 ゲスト: 岡田渉 (角川書店)
- ・ネットワーキングカクテル

10月26日(金)

- ・セミナー6. キューテック(ポストプロダクション会社)訪問
- ・セミナー7. ケーススタディ分析 ヨーロッパとの共同製作
講師: Jean-Christophe SIMON

- ・日本の業界関係者との交流会 ゲスト：富山省吾
- ・セミナー8. 日本映画のヨーロッパ配給について
講師：Stephan HOLL
- ・セミナー9. Small Islands, Big Dreams. 沖縄 @日欧コ・プロダクションラボ
講師：新川博、クロード・ガニオン、PANASIA
モデレーター：金城孝
共催：沖縄フィルムオフィス
- ・セミナー10. フランスの新しい国際共同製作支援について
講師：Ronan GIRRE

■文化庁国際共同製作支援のための認定

①実施概要

- ・応募件数：12 件
- ・認定件数：9 件
- ・文化庁支援採択件数：4 件

区分	作品名	団体名
劇映画	魔女の宅急便	株式会社スチューディオ・スリー
劇映画	ゲノムハザード	株式会社ハピネット
劇映画	101 次求婚	株式会社フジテレビジョン
アニメーション映画	ドラゴンボール Z	東映株式会社

* 魔女の宅急便は製作スケジュールの変更により、のちに文化庁採択を辞退した。

② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・日時：平成 24 年 8 月 8 日(水)
- ・場所：ユニジャパン会議室
- ・検討委員：

石川知春 NPO 法人映像産業振興機構(VIPO) 事務局長
 石川光久 株式会社プロダクション・アイジー 代表取締役社長
 井関 惺 株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
 華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
 富山省吾(委員長) 日本アカデミー賞協会 事務局長
 堀越謙三 有限会社ユーロスペース 代表取締役
 東京藝術大学大学院映像研究科教授
 南 雅彦 一般社団法人日本動画協会 常務理事
 株式会社ボンズ 代表取締役社長

(3)「クリエイティブ・マーケット TOKYO (CMT)」の制作運営

(関東経済産業局の補助事業)

コンテンツ制作者、コンテンツ関連企業、支援機関等を中心としたビジネスネットワーク形成を強化し、高付加価値の新事業の芽を創出するとともに、国内・海外市場での新たな需要の獲得に向けた新商品、新事業を創出するための取組として、ビジネスマッチングイベント CREATIVE MARKET TOKYO (CMT) 2012 と年間を通じたネットワーキングの場となる CMT CONNECTION を実施した。

■ CREATIVE MARKET TOKYO (CMT) 2012

① 出展者数：43 ブース

② 延べ来場者数：約 5,000 人

③ 開催概要

日程： 平成 24 年 10 月 23 日（火）～25 日（木）

会場： ホテル グランパシフィック LE DAIBA

主催： 公益財団法人ユニジャパン（経済産業省 関東経済産業局 補助事業）

協賛： 日本電気株式会社

後援： 公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS 協会）、韓国コンテンツ振興院、独立行政法人中小企業基盤整備機構、一般財団法人デジタルコンテンツ協会、一般社団法人デジタルメディア協会、一般社団法人日本アニメーター・演出協会、一般社団法人日本商品化権協会、一般社団法人日本動画協会、不正商品対策協議会、香港貿易発展局

④ 主な実施内容

- ・企画ピッチセッション
- ・商談ブースによる個別商談
- ・地域プロモーションコーナー
- ・地域コンテンツ会議

■ CMT CONNECTION (CMTG)

① 実施回数：9 回（うち関連イベント 3 回）

② 延べ参加者数：671 人

③ 主な実施内容

- ・第 1 回「CMT CONNECTION キックオフイベント」
- ・第 2 回「オンラインゲームとキャラビズで新たな市場を創造する！」
- ・第 3 回「コンテンツビジネスの新しい資金調達」
- ・第 4 回「事業化支援制度説明会 ＋ 交流会」
- ・第 5 回「クリエイターのためのソーシャルアプリビジネスへのアプローチ」
- ・第 6 回「電子出版が創るコンテンツの未来」
- ・JOGA × CMT スペシャルセミナー「スマートフォンと LINE で広がるビジネスチャンス ～企業や地域ビジネスのソーシャルメディア活用法～」

- ・「Creative Market Tokyo (CMT) によるコンテンツ事業化支援フォーラム」
- ・「CMT CONNECTION 交流会」

【人材育成事業】

(1) 若手プロデューサーの留学支援事業（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「若手人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する米国フィルムスクール（大学院）への留学生に対する学費等の支援、説明会の実施、米国及び国内における研修の実施、人材育成に関連する調査等を行った。

■ 長期留学支援事業

- ① 対象となるフィルムスクール（大学院プロデューサーコース）
 - ・ University of Southern California (USC)
 - ・ University of California, Los Angeles (UCLA)
 - ・ American Film Institute (AFI)
 - ・ New York University (NYU)
 - ・ Columbia University in the City of New York
- ② 平成 24 年度支援対象者
 - ・ 呉良次 (AFI Conservatory Producing Discipline)
 - ・ 三谷匠衡 (USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program)
 - ・ 宮川絵里子 (USC School of Cinematic Arts, Peter Stark Producing Program)
- ③ 留学支援説明会
 - ・ 長期留学支援制度の周知とフィルムスクールへの留学希望者の発掘及びサポートを目的とした説明会を実施
 - ・ 日程：平成 24 年 7 月 16 日
 - ・ 参加者：86 人

■ 研修事業の実施

- ① 米国短期研修プログラム
 - ・ 有力なフィルムスクールが集まる米国西海岸を訪れ、フィルムスクール見学やハリウッドの業界関係者訪問等を行う短期研修プログラムを実施
 - ・ 日程：平成 24 年 9 月 3 日～8 日
 - ・ 参加者：11 人
- ② ハリウッド流脚本開発トレーニング
 - ・ ハリウッドで活躍する講師を招聘し、国内の若手人材のための脚本開発やストーリーテリングに関するトレーニングを実施
 - ・ 日程：平成 25 年 3 月 9 日・10 日
 - ・ 参加者：52 人

③ コンテンツ国際共同製作ワークショップ in 沖縄

- ・アジア圏を中心とする 6 カ国のプロデューサーと、国内からの参加したプロデューサーがチームを組んで、国際共同製作の企画開発を行うワークショップを実施
- ・日程：平成 25 年 3 月 23 日～26 日
- ・参加者：23 人

(2) 若いクリエイターの発掘と短編映像の制作・海外展開（経済産業省の委託事業）

(1) と同じく、経済産業省からの受託事業である、「若手映像等人材海外研修・国際ネットワーク構築事業」として実施。日本の若手クリエイターの海外進出を支援することを目的とする。若手クリエイターの発掘に関しては、前年に引き続き「PFF アワード（ぴあフィルムフェスティバル・コンテスト部門）」と連携して実施した。

■ 短編映像制作

PFF アワード 2012 入選者を対象とした短編映像制作プログラムを実施。別途公募したプロデューサーとのマッチングを経て以下の 3 作品を制作した。

- ・『夢を、見た』（監督：井上 真行、プロデューサー：山中羽衣）
- ・『りんご』（監督：北川 仁、プロデューサー：湯川暁子）
- ・『隕石とインポテンツ』（監督：佐々木 想、プロデューサー：鈴木徳至）

* 第 66 回カンヌ国際映画祭短編コンペティション正式出品

■ 短編映像の海外展開

- ① カンヌ国際映画祭（平成 24 年 5 月）：フランス
- ② OZU 国際映画祭（平成 24 年 11 月開催）：イタリア
- ③ クレルモンフェラン国際短編映画祭（平成 25 年 1 月）：フランス
- ④ 香港国際映画祭（平成 25 年 3 月）：中国

Ⅱ. [処 務 の 概 要]

1. 役員に関する事項

役職名	氏 名	任 期	常勤/ 非常勤	報酬 等	法人以外の現職
代表理事 理事長	高井 英幸	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝株式会社 相談役
理事	井上 弘	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本民間放送連盟 会長
理事	岡田 剛	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長
理事	小野 直路	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	日本放送協会 副会長
理事	崔 洋一	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画監督協会 理事長
理事	迫本 淳一	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	松竹株式会社 代表取締役社長
理事	佐藤 直樹	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	日活株式会社 代表取締役社長
理事	椎名 保	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社角川書店 取締役相談役
理事	島谷 能成	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長
理事	布川 郁司	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本動画協会 理事長
理事	藤井 宏昭	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	森アーツセンター 理事長
理事	松岡 宏泰	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝東和株式会社 代表取締役社長
理事	杉本 晶	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社電通 取締役 常務執行役員
理事	依田 吉	平成24年6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ 産業部会 会長
監事	大藏 満彦	平成22年7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長
監事	濱野 保樹	平成22年7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東京大学 名誉教授
評議員 長	大谷 信義	平成22年7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長
評議員	岡田 正代	平成22年7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長

評議員	大森 壽郎	平成24年6月20日～ 平成 28 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ 代表取締役社長
評議員	柏原 寛司	平成22年9月 2日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本シナリオ作家協会 会長
評議員	角川 歴彦	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社角川グループホールディングス 取締役会長
評議員	兼松熙太郎	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画撮影監督協会 理事長
評議員	古森 重隆	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	富士フイルム株式会社 代表取締役社長・CEO
評議員	佐野 哲章	平成22年9月 2日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 業務執行役員
評議員	新藤 次郎	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画製作者協会 代表理事
評議員	杉田 成道	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画テレビプロデューサー協会 会長
評議員	塚田 芳夫	平成22年9月 2日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益社団法人映像文化製作者連盟 会長
評議員	松岡 功	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人映画産業団体連合会 会長
評議員	矢内 廣	平成22年7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	ぴあ株式会社 代表取締役社長

以上、平成25年3月31日 現在

2. 役員会等に関する事項

理 事 会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成24年6月5日	第1号議案 平成23年度事業報告及び同収支決算の承認の件	可決
平成24年6月20日	第1号議案 代表理事選任案の承認の件 第2号議案 平成24年度収支予算の一部変更案の承認の件 第3号議案 財団役員・法人間の取引の承認の件 第4号議案 評議員会招集日設定案の承認の件	可決 〃 〃 〃
平成25年3月15日	第1号議案 平成25年度事業計画及び同収支予算承認の件 第2号議案 東京国際映画祭実行委員会規約一部改訂案承認の件 第3号議案 第25回東京国際映画祭実行委員会の解散並びに第26回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同委員選任案承認の件 第4号議案 第26回東京国際映画祭実行委員会委員長委嘱案承認の件 第5号議案 代表理事辞任及び新代表理事選任案承認の件 第6号議案 評議員会招集日設定案承認の件	可決 〃 〃 〃 〃 〃

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	会議の結果
平成24年6月20日	第1号議案 評議員(1名)選任案の承認の件 第2号議案 理事(14名)選任案の承認の件 第3号議案 平成22年度事業報告及び同収支決算の承認の件 第4号議案 平成24年度収支予算の一部変更案の承認の件 第5号議案 財団役員・法人間の取引の承認の件	可決 〃 〃 〃 〃
平成25年3月15日	第1号議案 平成25年度事業計画及び同収支予算承認の件 第2号議案 東京国際映画祭実行委員会規約一部改訂案承認の件 第3号議案 第25回東京国際映画祭実行委員会の解散並びに第26回東京国際映画祭実行委員会の設置及び同委員選任案承認の件 第4号議案 第26回東京国際映画祭実行委員会委員長委嘱案承認の件	可決 〃 〃 〃

3. 寄附金に関する事項

平成25年3月31日現在

(単位：円)

寄附の目的	寄 附 者	寄附金額	受 領 日	備 考
国 際 映 画 祭 開 催 費 用	(株)ティー ワイ リミテッド	12,000,000	平成25年 3月29日	
	松竹(株)	9,000,000	平成24年 6月29日	
	東宝(株)	9,000,000	平成24年 7月31日	
	東映(株)	9,000,000	平成24年 8月10日	
	(株)角川書店	9,000,000	平成24年 6月29日	
	日活(株)	1,500,000	平成24年11月 5日	
	富士フイルム(株)	1,000,000	平成24年10月25日	
	(一社)映画演劇文化協会	1,000,000	平成24年 8月31日	
ぴあフィルムフェスティバル 制作・運営費用	(一社)映画演劇文化協会	20,000,000	平成24年 7月31日	
合 計		71,500,000		

4. 賛助会費に関する事項

(年会費 1口 50万円)

目 的	会 員 氏 名	口数	会 員 氏 名	口数
	松竹(株)	6	(株)東北新社	4
	東宝(株)	6	アスミック・エース(株)	1
	東映(株)	6	(株)ショウゲート	2
	(株)角川書店	6	(株)東急レクリエーション	1
	日活(株)	6	TOHOシネマズ(株)	1
	ワーナー・エンターテインメント ジャパン(株)	4	大蔵映画(株)	1
	(株)ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント	4	佐々木興業(株)	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株) ウォルト ディズニー スタジオモーションピクチャーズ ジャパン	4	武蔵野興業(株)	1
	20世紀フォックス映画	4	三和興行(株)	1
	パラマウント・ジャパン(株)	4	(株)東京楽天地	1
	ギャガ(株)	3	東宝東和(株)	4
	バンダイビジュアル(株)	1	東宝アド(株)	1

(株)IMAGICA	1	(株)サウンドマン	1
東映ラボ・テック(株)	1	(株)クオラス	1
シンエイ動画(株)	1	(株)電通	4
東映アニメーション(株)	2	(株)博報堂DYメディア・パートナーズ	4
日本テレビ放送網(株)	4	ソニー(株)	1
(株)TBSテレビ	4	住友商事(株)	1
(株)テレビ朝日	4	富士フイルム(株)	1
(株)フジテレビジョン	4	(株)日本シネアーツ社	1
(株)テレビ東京	3	トップツアー(株)	1
(株)NHKエンタープライズ	2	ウシオ電機(株)	1
(株)WOWOW	1	(一社)日本映像ソフト協会	4
スカパーJSAT(株)	1	(株)ティーワイリミテッド	1
(株)衛星劇場	2	(株)集英社	2
(株)ニッポン放送	1	(株)チネチッタ	1
(株)東京タカラ商会	1	(株)サンライズ社	1
ジュピターエンタテインメント(株)	1	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
(株)ポニーキャニオン	3	(株)タカラトミー	2
(株)角川グループホールディングス	2	(株)久栄社	1
ぴあ(株)	1		
アテネ・フランセ文化センター	1		
合 計 62社 142口 71,000,000円			